第10号
2022年4月
＜部内資料＞

平和新聞

北・上京区版
連絡先
京都平和委員会
075-811-3203

4月10日　京都に本当の春を

京都府知事選挙、北区府会議員補欠選挙の投票日です

京都新聞によれば、70%の方が今の政治に満足しておられないと回答しています。けれど、選挙のたびに報じられる投票率は 50%を超えた程度。「誰になっても変わらない」「今より悪くなるよりはいまのままで」という声もよく聞きます。今の暮らしのままでは困ると思っても選挙には行っていないという 20%の人たちが一人でも二人でもよく考えて投票所に足を運んでくだされば、きっと政治は変わります。まだ間に合います。投票に行ったことがない、今度はいかない、そんなことを言っている方へ、一緒に考えましょうと声をかけてみませんか。

◎　このまま命あずけますか？

京都府は大阪に次いでコロナ感染症での死者が人口比で日本２位。今も大切な命が失われています。蔓延防止措置は飲食店の方に我慢を強いるだけの期間ではなく、行政が医療機関の体制や保健所の体制を整える機関であったはずなのに。コロナ感染症は陽性になったら入院が基本の感染症です。自宅療養中の１歳未満のお子さんの未来も奪われました。人口 91 万人和歌山県と人口 261 万人の京都府で保健所の数が同じでいいですか。人口 146 万人の京都市に１か所の保健所で対応できるのでしょうか。京都府は国の方針に従って、国公立病院の統廃合を進めようとしています。京都市は行政区ごとにあった保健所を１か所だけにしてしまいました。あなたの命、いまのままの首長にこれからも預けますか？

◎　学生が 2500 人足らずの京都府立大学に、１万人収容の体育館って必要？

京都府立大学は学生・大学院生合わせても 2500 人未満です。老朽化した体育館の建替えは教育の場には必要でしょうが、１万人も入れるような大きな体育館は必要ですか？学生や教職員がそれをのぞんでいるのですか。

◎　植物園を通り道にするの？

どうやら京都府は、学生のために体育館(アリーナ)を立て替えるわけではなさそうです。植物園を通ってアリーナに行きやすいように、植物園を縮小して道をたくさんつけたいようです。体育館は教育施設で、授業だけではなく課外活動でも使われるところ。イベント優先で学生の活動が制限されるようでは何のための建替えかわかりません。それに植物も「移植したらいいや」と簡単に考えられているようで(辺野古のサンゴと同じですね)、これまでの植物園の歴史と職員の皆さんの努力への敬意、感じられますか。

◎　武力には武力を、核兵器には核兵器を、でいいですか？

ウクライナでは今日も市民が犠牲になっています。私たちはこどもたちが喧嘩を始めたら仲裁に入って、ちゃんと話せばわかるよといっています。どんな理由があろうとも武力ではなく話し合いで解決できるよう努力することが国際社会にもとめられているのではないでしょうか。「いつ戦争が起こるかわからないからアメリカの核兵器を持ち込めるようにしよう」「憲法９条を変えて「自衛」のためにいつでも攻撃できるようにしよう」と言い出した人たちいます。ウクライナの惨状を見て多くの国民は、「原発も核兵器もなくさなければ」「戦争が始まったらではなく戦争を起こさないために力を尽くさなければ」との思いを強くしているのに。そんな考えの人たちに応援された首長を選びますか。京都には丹後に米軍のレーダー基地があり、福知山の自衛隊では米軍との合同演習が行われています。欠陥機といわれるオスプレイも京都市の上空を飛んでいるとの目撃情報が寄せられています。平和の問題は他人ごとではないでしょう。

◎ 政党ってなんでしょう

首長選挙は政党を選ぶ選挙ではありません。でもどのような考えで候補者を応援するのかということは、政党の理念とも大きくかかわっているはずです。国政の場では、与党と明らかに異なる主張をしているのに、「地方は地方」と国政の与党勢力と一緒になって首長を応援することは理解できますか。コロナ感染症、税金、核兵器の共有などは国だけの問題ではありません。「地方は地方」というのなら、どこが違うのかちゃんと説明してほしいですね。

◎ 北区府会議員補欠選挙はなぜ行われるのでしたっけ？

北区の市会議員補欠選挙は、自民党の府会議員が公職選挙法に違反をして、運動員に報酬を支払い、議員辞職をしたことによるものです。国政選挙での「マネーロンダリング」問題も弁護士や大学教授から告発がされています。お金で人の心を動かそうという体質に反省もないまま、次の候補者を立ててくる政党を信じることができますか。そんな人たちの応援を受ける人を信じていいですか。

誰かが変えてくれるのではなく、一人一人の１票が暮らしを変える、命を守る力になるのです

再び 69 署名行動に参加して、思うこと

井上　雅人

私は 1986 年より北区の原水爆禁止運動に関わり、平和行進、原水爆禁止世界大会等を取組んできました。街頭での 69 署名行動も新婦人や民医連のみなさんとともに実施していましたが、しだいに困難になっていきました。

2017 年、国連で「核兵器禁止条約」が賛成 122 ヵ国で採択され、昨年１月 22 日に、発効しました。今年３月 24 日、コートジボワールが批准し、批准国は 60 までになりました。私が 69 署名行動に再び参加するようになった動機は、この条約の発効でした。コロナ禍の影響もあり、北、上京区で街頭署名行動を実施しているのは新婦人だけのようですが、毎月の 69 署名行動に参加しています。核兵器は国際法上、違法になったのに、被爆国日本が批准しないのは、どう考えてもおかしい。街頭で「禁止条約参加署名」を訴えると、多くの市民は賛同してくれます。

ひさしぶりに 69 行動に参加してみて、強く思った事は、小中学生の興味、関心が高いことです。北大路ビブレ前で行動する新婦人北は毎回、原爆パネルで展示をおこないます。すると小学生（ほとんどは立命館小学校の児童）が立ち止まってそのパネルを熱心に見ています。そして、新婦人のみなさんに質問し、対話となり、署名にも応じてくれます。上京区でも二条城前広場で多くの困難を乗り越え、69 署名行動を実施していますが、やはり積極的に署名に応じてくれるのは修学旅行の生徒たちでした。小中学校で現在、どのような平和教育がおこなわれているのか、不勉強ではありますが、平和運動の今後を考える上で、とても重要な問題だと思います。今、高校生平和ゼミナールの活動として日本政府に禁止条約への署名・批准を求め「声を上げよう！高校生署名」を取組み、オンラインで高校生平和集会を開催しています。ロシアのウクライナ侵攻に関しても「何か行動しないといけない」との思いから、愛知、千葉、埼玉の高校生が独自の抗議集会、署名、抗議電等の活動をおこなっています。生徒たちは自分の将来に深く係る問題として、平和の問題を考え、行動するようになっているのだと思います。

（北原水協事務局長）

編集人より

年金受給者に 5000 円配るという案が出されて編集後記を書いていたのですが、あまりに不評で白紙に戻ったとか。

それで書き直しています。さて、職場の同僚の家族がコロナ陽性になりました。出張先のお相手が陽性になり、濃厚接触者になったため、自主待機でホテル暮らしをしているうちに症状が出たそうで、保健所に電話をしたらホテルを出て自宅で療養する様にといわれたそうです。ご自宅には持病を持っているご家族がいるためにホテル暮らしをしていたのに。医療現場はまだまだ混乱しています。皆さんの周りは落ち着いているでしょうか。お便りお待ちしています。

太田　啓子（miyakowasure@hera.eonet.ne.jp）